

2006. 7. 21. 矢野

## 胸部エックス線検査による肺癌スクリーニングは有害か？

— 「Cochrane Library」におけるレビュー結果

### 「Cochrane Library」とは

「Cochrane Collaboration (コクラン共同計画)」は、治療、予防に関する臨床試験を系統的な方法で吟味し、臨床家に対し現時点での標準的な治療、予防の情報を提供することを目的とした医療の評価調査プロジェクトである。そのコクラン共同計画が活動の成果として公表する「系統的総説」は、最も正確で権威ある治療方針を提供する「Cochrane Library」としてインターネットやCD-ROMの形で提供され、EBMの主要な道具として世界中で利用されている。

Cochraneの名前は、英国の医師 Archiebald Cochrane, (1909-1988) から来ており、「コクラン共同計画」は1992年に英国の National Health Service (NHS) の一環として発足し、今は世界各国に広がっている。

### 肺癌スクリーニングについての Cochrane レビューの要約

[http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?db=pubmed&cmd=Retrieve&dopt=abstractplus&list\\_uids=14973979&query\\_hl=3&itool=pubmed\\_docsum](http://www.ncbi.nlm.nih.gov/entrez/query.fcgi?db=pubmed&cmd=Retrieve&dopt=abstractplus&list_uids=14973979&query_hl=3&itool=pubmed_docsum)

Cochrane Lung Cancer Group. (Manser, RL; Irving, LB; Stone, C; Byrnes, G; Abramson, M; Campbell, D) Date of Most Recent Update: 12-January-2005

**背景:** 一般集団で肺がんスクリーニングを行っている国はほとんどないが、喀痰検査、胸部エックス線やCT等の新しい方法が肺がんによる死亡を減らす上で有用であるかどうかは不明である。

**目的:** 喀痰検査、胸部エックス線やCTによる肺がんスクリーニングが肺がんによる死亡を減らすかどうかを判定する。

**調査方針:** 電子媒体上のデータベース (the Cochrane Central Register of Controlled Trials, MEDLINE, PREMEDLINE and EMBASE; 1966 to July 2000), 論文、手作業による論文検索と専門家による考察で既発表、未発表の研究を同定した。

**選択基準:** 喀痰検査、胸部エックス線や胸部CTによる肺がんスクリーニングについて対照群をおいた研究

**データ収集と分析:** スクリーニング参加希望者を実施群とする分析を行った。不均一性に統計的に有意性が見られるときはランダム効果モデルによる相対危険度を、その他の時は固定効果モデルを用いた。

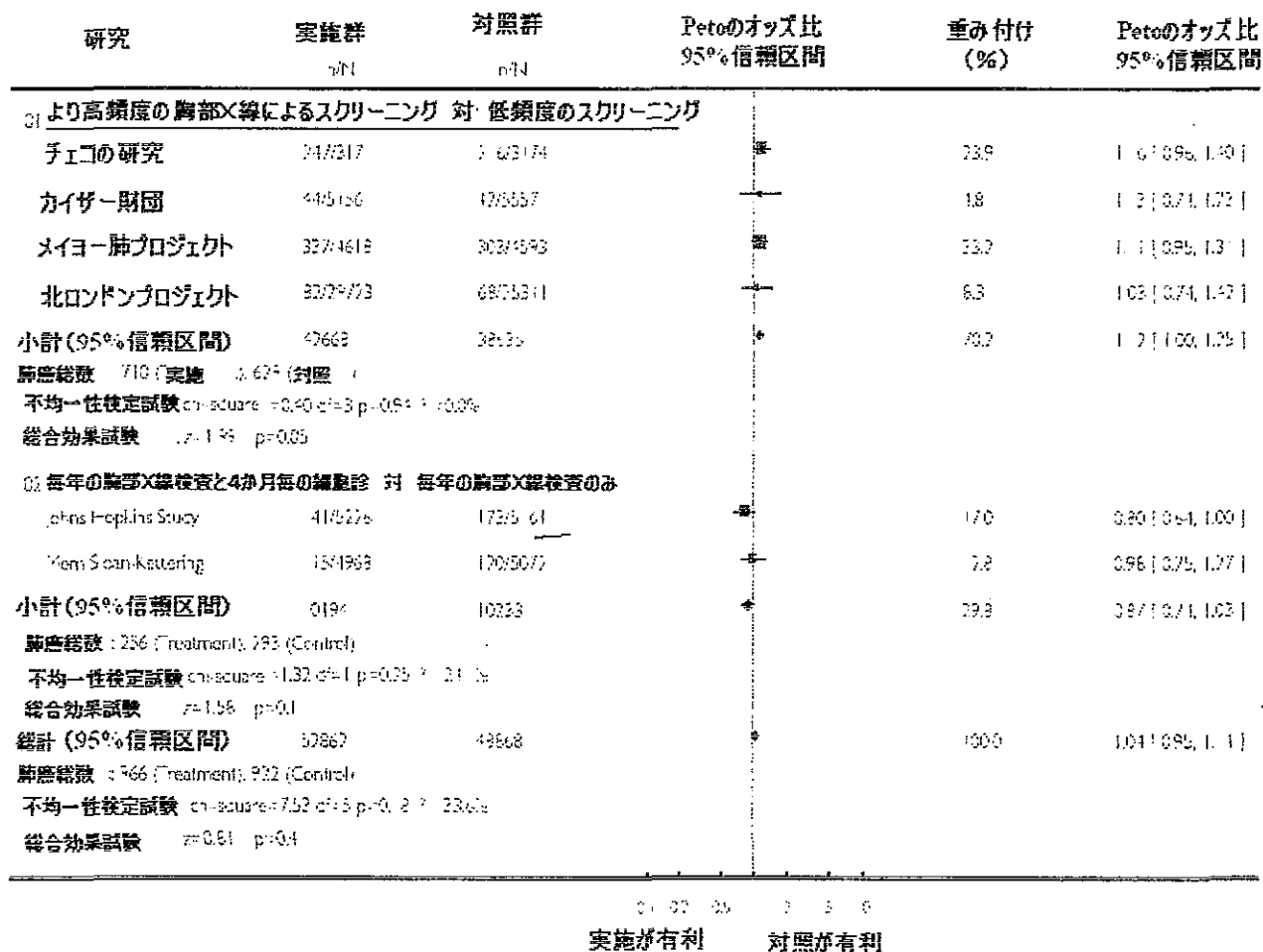
**主な結果:** 7つの研究が採用され (ランダム化対照試験6, 非ランダム化対照試験1) 対象者総数は245,610人。スクリーニングを行わなかった対照群を置いた研究はない。胸部エックス線による頻回のスクリーニングは頻回でない群に比べ、肺がんによる死亡率の

11%増加と関係していた(RR 1.11, CI: 1.00-1.23)。胸部エックス線と痰の細胞診を組み合わせたスクリーニングはエックス線検査単独に比べて、死亡率の減少が見られたが、統計的に有意ではなかった(RR 0.88, CI:0.74-1.03)。採用した研究のいくつかは方法上に問題があった。らせんCTの対照群を置いた研究はなかった。

結論:現在のところ、胸部エックス線や細胞診による肺がんスクリーニングを支持するエビデンスはない。頻回の胸部エックス線検査は有害な可能性がある。方法論的により確かな研究が必要である。

Fig. 2. 低頻度スクリーニングに比べて肺がんスクリーニングによる肺がん死亡率の比較(延長追跡の結果)

文献検討:肺がんスクリーニング  
 比較:肺がんスクリーニング vs. 低頻度の肺がんスクリーニング  
 結果指標:肺がん死亡率



図のオッズ比の信頼区間が示すように、頻回のX線検査は肺がん死を増やす可能性がある。